

我が社の「建設工事のイメージアップへの取り組み」について

佐々木建設株式会社
佐々木 久

わが社のイメージアップへの取り組みへの基本的な考え方について述べてみたいと思います。

ご承知の通り建設業の現場は農業と同じく屋外で働かなければならない宿命にある。

夏は酷暑の中、又、冬は厳寒の中での作業を強いられるから、大へん苛酷な労働条件のもとで働かなければならない宿命にある。

又、その上労働時間は多く、所得の面でも他産業より低い。これでは若年労働者が建設業に就職しない理由がよく理解出来る。

そこで我々の現場で考えなければならないことは、先ず「快適職場」を造ることである。

苛酷な気象条件は別として、努力すれば快適な職場が造れないことはない考える。

昔から労働安全の初歩的な、又基本的な手法として推進されている4S（整理・整頓・清掃・清潔）運動を徹底することである。4Sさえ守れば「快適職場」は造れるはずである。

この簡単なことが守れない現場が多いのも実状である。

これは経営者として快適な職場の形成に努めることを法律（安衛法）でも義務づけられている。

私の考え方は、やはり建設業で働いてみたい衝動がおこる様な「快適職場」をどの様に造ればよいか、今後我々に課せられた大きな課題である。

むしろ外部から見て、本当に快適な現場が出来るのであれば養生用の囲障などは取り払って堂々と現場内を見てもらった方がイメージアップへの近道であると考えている。

次に建設現場だけでイメージアップをいくら努力しても、ただそれだけで建設業全体のイメージアップにはならない。

それは建設業の経営者の資質の問題である。

私も中小建設業の経営者として、反省をこめてここで強調したいことがある。

建設業の経営者は、公共事業に多く依存しておるが故に、常にその地域社会の人々から信用されいわゆる評判の良い経営者にならなければならない。

なかなか難しい問題であるが、一人でも多く評判の良い経営者が生まれてくれば、建設業の地位の向上は上がってくると確信しておる次第である。

その上に各現場でのイメージアップのためのハードの面を改善すればなお一層魅力ある建設業になるだろうと考えます。

① 善徳床固工工事

1. 発注者 四国地方建設局 吉野川砂防工事事務所
2. 工期 平成3年度～平成9年度（予定）
3. 請負業者名 佐々木建設株式会社
（協力業者 県西土木株式会社）
4. 工事概要 （平成3年度～平成6年度）

受注工事費	¥316,828,000.-
施工概要	護岸 L=160.0m
	床固 H= 5.5m
	L= 53.5m
垂直壁	H= 4.0m
	L= 68.0m
魚道	W= 15.0m
	L= 20.0m

5. 施工箇所の環境 年間40万人の観光客が訪れる有名な祖谷のかずら橋の直上流で施工する現場である。
祖谷の溪谷美を損なわない為に、コンクリート張りの護岸ではなく、自然石（緑泥片岩）で化粧し、あずまや風展望台、ベンチを設置し、西祖谷山村の村花であるヤマブキ、又は村の木のモミジ、現場内に多く自生しているイワツツジを植栽し、西祖谷山村営キャンプ場と一体となった親水広場の整備をめざす工事である。
6. イメージアップへの取り組みについて

(1) 事業の広報

(イ) 砂防資料館（SABO STATION）の設置

坂本現場代理人がSABO STATIONと名付けパネルも手作りである
又、屋根は杉皮ぶきで、天井が3重仕上げとなっている為に夏でもクーラーが必要ない涼しさである。

工事完成後は地元の集会所として使ってもらいたいと考えている。

館内には、ビデオ、パネル、その他砂防関係資料の展示をした。

明治政府が雇ったオランダ人ヨハネス・デレーケが110年前に吉野川上流で砂防工事の必要性を説き、施工された巨石積堰堤の写真も紹介した。

(ロ) 地元住民に事業説明会開催

(ハ) キャラクター看板の設置 （現場周辺にタヌキが多い）

(ニ) 展望台の設置

村営キャンプ場内に設置し、工事完成後も存置の予定である。

(ホ) 現場の案内看板の設置

(2) 作業現場環境の整備

(イ) 現場事務所の整備

(ロ) フラワーポットによる花壇の設置

土井主任技術者、女子作業員のアイデアで竹を利用したフラワーポットを作った。

(ハ) 作業通路の整備

山間部なので夜間照明灯を3ヶ所設置し手すりには間伐材を使用した。

(ニ) 作業服の改善（作業員の人気投票で決定）

(3) 労働環境の整備 （快適職場の形成）

(イ) 福利厚生施設の整備

(a) 休憩所の設置

地元の杉・檜等の間伐材で山小屋風の建物にした。

室内には囲炉裏、自在鉤を設置し、休憩時間にはよりリラックス出来る様配慮した。

工事完成後は西祖谷山村へ寄付する予定

(b) シャワー室の設置

(c) 水洗トイレの設置

(d) 時短の徹底

(ロ) 第2回優秀施工者建設大臣顕彰を戦長である保口義男氏が受賞した。現場全体の名誉として考えている。協力業者（県西土木株式会社）とは元請、下請の上下の関係ではなく、良きパートナーとして常に融和を計り一体となって施工に当たっている。

(4) その他

池内現場技術員の提供により、カブト虫を飼育し、地元の子供達へプレゼントした。

(5) 周辺地域の反応

- (イ) 観光面でプラスになると期待が大きい。
西祖谷山村では工事完成後にはかずら橋を中心として周遊道路を計画している。
- (ロ) 現場の環境整備により、過去の建設現場に対する暗いイメージの払拭を計り大変共感を得ている様である。
- (ハ) 岩盤掘削中、硫黄臭の強い湧水を発見し村当局に連絡しました。現在冷泉の調査中である。
- (ニ) 善徳小学校の社会科の校外教育の場として現場が活用されている。
- (ホ) 現場周辺がアユ、アメゴ等の良き釣り場でありますから釣り人に休憩所を利用提供して大変好評を評している。

② 平成4年度 勝瑞堤防工事

1. 発注者 四国地方建設局 徳島工事事務所

2. 工期 平成4年9月～平成5年5月

3. 請負業者 佐々木建設株式会社

4. 請負金額 ¥119,686,000.-

5. 工事概要

延長	L=340m	盛土	2300m ³
掘削	6600m ³	連節ブロック	1700m ²
芝付	1200m ²	仮締切工	95m
排水工	150m		

6. 施工箇所環境

この工事のおかれている環境は大工場と住宅の密集地である。
築堤用の大量の土運搬がある。その上仮締切の矢板工事がある。
現場周辺の生態系としては、

魚類 ぼら、ふな、にごい、うなぎ、なまず、かめ、からす貝

鳥類 かもめ、かも、さぎ、しぎ、かいつぶり

以上の通り現場としては大変厳しい条件下で施工した。

7. イメージアップへの取り組みについて

（1） 事業の広報

（イ） 展示館の設置

工事概要のパネル、多自然型工法の説明。

子供の為の建設機械のプラモデルを置き、自由に動かしてもらう。

地元特産物の展示等

（ロ） 見学自由、大歓迎の看板の設置

現場が工場裏のため、人通りの多い県道に設置した。多数の見学者があった。

（ハ） 現場内の安全通路の設置

作業員だけでなく、見学者が自由に現場内へ安全に入れる通路を設置した。

（ニ） 生態系への配慮

矢板施工中も水鳥が逃げない工夫として魚釣りのまき餌の要領で建設機械運転中はまき餌をした。

その結果、施工以前より水鳥が多くなった。

（2） 現場環境の整備（快適職場の形成）

（イ） 現場事務所のより一層の美化

（ロ） フラワーポットによる美化

（ハ） 作業通路の整備と美化

（ニ） シャワールームの設置

（ホ） 時短の徹底

（3） 結論

イメージアップの為の現場におけるハード面の整備は勿論必要であるが、現場代理人と地元住民との思いやりのある対話が大切である。

以上、我が社の取り組みましたイメージアップ工事についてその概略をご紹介させていただきました。ご存知のように私達の建設業界は多々ある産業の中でも“3K”・“6K”の代名詞のように言われておりこれの改善に産・官・学が一体となって建設事業のイメージアップを推進中でございます。

私達が見る個々の現場サイドでは地域住民の建設事業に対する認識や重要性が理解され、協力的な傾向が見えてまいりました。しかしながら、全般的な面から判断すれば広い階層の方々よりの理解が不足しているような感がいたします。今後はもっと広い場で良い現場、良い仕事を知らせたい、伝えたい、広げたいの努力を微力ですが続けてまいりたいと存じます。